

大会派遣・研修報告書	
1. 大会・研修会名	第71回 全日本大学バスケットボール選手権大会
2. 研修期間	2019年12月8日(日)～11日(水)
3. 派遣者	松永 雄平(佐世保)
4. 日程	8日(日) 移動 佐世保～東京 9日(月) 女子1回戦 白鷗大学 対 倉敷芸術科学大学 10日(火) 男子1回戦 筑波大学 対 金沢大学 11日(水) 移動 東京～佐世保
5. 研修概要	担当ゲーム：上記2ゲーム
6. 研修内容	<p>女子1回戦 白鷗大学 対 倉敷芸術科学大学 CC 貫井義昭氏(東京) U1 大豆村齊氏(岐阜) U2 松永雄平(長崎) インストラクター 山田巧氏 【ポストゲームカンファレンス/クルーミーティング内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライマリのレフリーが判定するという意識をもっと持つべき。</li> <li>・TOの管理は良かった。</li> <li>・TFコールに至った(しなければならなくなった)理由をしっかりと考察していくべき。</li> <li>・クルーでのコミュニケーションは多くとることができた。</li> </ul> <p>男子1回戦 筑波大学 対 金沢大学 CC 佐田幸一氏(山梨) U1 大豆村齊氏(岐阜) U2 松永雄平(長崎) インストラクター 橋本信雄氏 【ポストゲームカンファレンス/クルーミーティング内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・突発的に起こるできごとについて意識を高め、Referee IQとして持つておくこと。</li> <li>・ベンチ管理(立ち続けたり、ベンチエリアからはみ出したりするようなもの)について意識を向ける。</li> </ul> <p>今回の2ゲームでは、突発的に起こることへの対応に引き出しをたくさん持っておくべきだと感じた。判定はもちろんのこと、プレゼンテーションやその後の処置に関する課題にしたい。 (例)・コート外に出た選手が、コートに戻ってきた瞬間、相手チームの選手にタックルする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・得点が決まったことに盛り上がりすぎてコートに入ってきてしまう。</li> <li>・TOの表示器具(電光掲示)が正しく表示されない。しかしテレビ中継が始まっている。</li> </ul> <p>例えばこのようなことが起こったとき、様々なことを含めた答えは一つではなく、そのときに応じた対応を検証していくことで、ゲームにマッチする感覚を養っていくことができると考える。</p>
7. 所感	<p>インカレへの派遣は今回が2回目ですが、学ぶことが多い大会でした。県内大会と共通して実践できることを検証し、普段は起こることが少ない事象についても検証することで、審判としての力量を高めていきたいと思っております。</p> <p>今回、派遣いただいた宮本会長、大田専務理事をはじめ、(一社)長崎県バスケットボール協会の皆様と、お世話になりました全日本大学バスケットボール連盟の皆様に御礼申し上げます。</p>